

FRIENDS OF GREEN

フレンズ オブ グリーン

緑友会コミュニケーション誌

2000年12月発行

No. 100

広島県広島市中区広瀬町1-16
発行人 福田 信彦 広島青年印刷研究会
編集人 やまなし印刷若人会



第42回 全国印刷緑友会とくしま総会

退任の挨拶

全国印刷緑友会 直前会長
松浦 正欣



人の温かさや優しさが身にしみる2年間でした。第40回長野総会から始まった2年間は「ただただ楽しい緑友」を目指して、その楽しさの中から経営者としての技術や心を磨き、友情を深める場としての緑友でありたいと願い、常に「人として正しいことをやっているのか」「緑友の為になるのか」と自問自答を繰り返しながらこの身に余る大役を果たしたいと考えていました。

この2年間に何をし得たかと自らに問えば、それは自分の無力さを知り多くの仲間達に支えられながらも、果たして次なる世代に何を受け渡すことが出来たか、自信はありません。

ただ、常任幹事さんをはじめとして全国の多くの会員の皆さんの緑友にたいする愛着心が、何とか緑友の形を壊すことなく次世代に受け渡す大きな力になりました。心からお礼を申し上げねばなりません。様々な人との出会いから、先輩方の掲げられた緑友を知ることが出来たような気がします。

仏典の中に「無財の七施」という教えがあるそうです。力や財力のない人でも、相手を思いやり、相手に尽くすことが出来る七つの布施があるということだそうです。曹洞宗の僧侶 松野宗純師の言葉を借りると、……貧者であり、弱者であり、愚者であるという自分を本当に知った人こそ、豊かな人間になれます。それは「無財の七施」について考えることで、よけいな財力や知識や競争心といった我執に邪魔されることなく、もともと人の心に中に備わっていた、尽きることのない「徳」の源泉を探り当てることが出来るからです。……とあります。

緑友の創世期に、偉大な先輩がたが理想とされた緑友は、悟りにもいた崇高な理念の具現化だったように思えます。理屈や言葉の遊びではない、情感の世界……。緑友会会長という重責の中で、学ぶことの多い2年間でした。これからの緑友が「ただただ楽しい緑友」であることを祈ります。



全国印刷緑友会 新会長
福田 信彦

光 栄にも、20世紀の締めくくり、そして21世紀の会長を受けさせていただいて大変にありがとうございます。

今もって混迷を続ける日本経済ではありますが、漸く回復の兆しを見せてきました。バブルの崩壊は我々に大きな打撃を加えましたが、一方多くの教訓も与えてくれました。それは造り上げたものは必ず壊れ、常に再構築していかなければいけないということだと思っています。リストラは企業だけでなく、個人や組織にも必要不可欠なものです。もう一度何が必要なのか考えるには大変いい時期が来たことと思えば、今までのそしてこれからの事も楽しみの一つに思えてきませんか？

歴 代の緑友会長が永遠のテーマにしてきたのは「謙虚にして高邁なる精神のもとに互いに研鑽していく」ことです。互いに謙虚な気持ちで接するから、友情と信頼が生まれてきます。その上だからこそ研鑽できるのだと思っています。緑友には素晴らしい考えを持った会員が多々いらっしゃいます、互いの考えの違いを論議する場ではなく、認め合い且つ尊重してその違いを楽しむことができるのが緑友の面白さでは無いでしょうか。違いを楽しむためには心のゆとりが必要です。その心のゆとりこそ、謙虚にして高邁なる精神の基本だと思っています。21世紀を探るためにも、緑友会を通じて色々な事にチャレンジして頂き、また失敗の中から研鑽して行きましょう。

い よいよ今期から緑友サーバーが正式稼働いたしまして、インターネットを通じてすべて会員に同じ情報を正確に速く伝えることができるようになります。これを機会にインターネットを始めていただき、情報交換・情報開示のためのツールとして出来るだけ多くの皆様のアクセス・発言をお待ちしております。

第42回
全国印刷
緑友会

とくしま総会開催



第42回 全国印刷緑友会とくしま総会が開催された

山中 克彦

平成11年5月29日（土）徳島プリンスホテルにて第42回 全国印刷緑友会とくしま総会は、全国より169名のメンバー、33グループが参加して盛大に開催された。

総会のテーマは「OUR Green Friends 起こせ Green Wave!」、準備の時から色々な波を起こしてきた「とくしま総会」は、全国印刷緑友会の今後を語る総会となった。

午後2時に予定通り開催、徳島一二会の広野君による開会宣言は、当日を迎えた喜びで参加者へのお礼から始まり歓迎のことばまで行う熱の入ったものとなった。国歌斉唱、綱領を中村寿男常任幹事を代表に全員で唱和、来賓紹介、報道関係者紹介、参加グループ紹介の後、Green Waveの震源地 吉田卓史実行委員長がお礼と歓迎のあいさつをおこなった。続いて松浦正欣会長あいさつ、徳島県印刷工業組合理事長の米澤新三郎様より来賓のご祝辞をいただいた後、議長に長尾良宣直前会長が選任され、総会議事へと進んだ。

平成10年度の事業報告と決算報告が承認された。第3号議案の会則変更は、松浦会長の最後の仕事として提出された議案であったが、参加者の中からその必要性は認めつつもコンセンサスが煮詰まっていないという意見が出され、この総会での承認について沢山のメンバーが発言し、論議が伯仲した。最終的には次年度の議題として再度案を煮詰めることで決着した。

続いて次期会長の福田信彦君が紹介され、

次期スタッフが紹介された後、議長席に直前会長となった松浦君が座り、福田会長より平成11年度の事業計画と予算案が発表され無事承認された。次に次期総会開催地が、札幌青年印刷人の会主管により札幌で開催されることが決定された。最後に徳島一二会の江川雅文君の閉会宣言にて終了した。

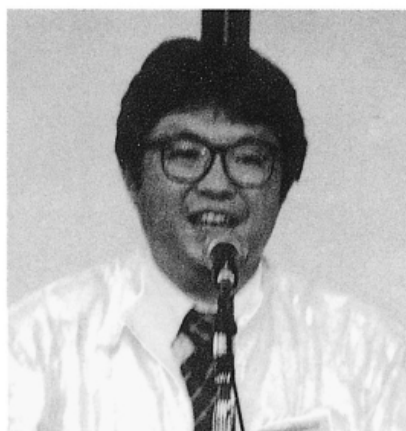
休憩にひきつづき4時30分よりパネルディスカッションが開かれ、松浦直前会長コーディネーターのもと、パネラーとして福田信彦会長、安藤英夫常任幹事、小倉克夫常任幹事が参加し、質問者として5名のメンバーが参加した。これからの全国印刷緑友会について熱い意見が交わされ、1時間の短い時間であったが十分内容の充実したものとなった。

6時30分からの懇親会では、いよいよ待ちに待った阿波踊り（娯茶平連）が披露され、阿波踊り教室、阿波踊りコンテストとつづき、最後は参加者全員が阿波踊りのリズムに乗って踊りだし、その熱気のまま「靴が鳴る」を合唱して終了した。



第42回全国印刷緑友会 徳島総会を終えて

徳島総会 実行委員長
吉田 卓史



第42回全国印刷緑友会徳島総会に、大変お忙しい中遠路多くの方々のご参加をいただき誠にありがとうございます。

いま総会を終え、ホットするとともに、十分なことができたのか、不愉快な思いをなさっていないかと、気をもんでいます。

ワタクシドモ徳島一代会は、全国印刷緑友会に入会して、まだ日も浅くそのうえ、大会、総会、セミナーなどの緑友会の活動にも、ほとんど参加することなくユウレイ会員となり下がっておりましたが、松浦会長が徳島にお見えになられたおりに、「徳島一代会で第42回全国印刷緑友会を受けてみないか？」というお話を受け、臨時会を数回開きました。

その中で、13名という少人数で十分なことができるのか？ ビンボーな会なので資金的な問題など～、多くの問題点が会員より出ましたがこのまま、ユウレイ会員ではイカン、これを機会に全国の会員の方々と交流を持ちより良い徳島一代会に変身しようではないか。13人が力を合わせ心をつにして徳島総会を受け、最高の総会を作り上げようと決め

ましたが、全国印刷緑友会のことを、あまりにも知らなかったために、緑友の先輩方初め、神戸印刷若人会の鳥さんや会員の方々、刷友青山会の逸見さん・松浦会長・長尾直前会長・福田新会長・各グループ長の方々に大変めいわくをかけましたことを、心からおおび申し上げるとともに、おかげさまをもちまして無事多くの方々をむかえ第42回全国印刷緑友会徳島総会を終えることができましたことを心より感謝申し上げます。

そしてこの総会を期に全国に多くの友人や知人ができました。これは私の人生の宝物となることでしょう。それと徳島一代会のメンバーの底知れぬ力を見、感動しております。

この機会を私どもに与えて下さった松浦会長「ありがとうございました」

最後に次回総会開催地の札幌青年印刷人の会の皆様、徳島一代会は、札幌総会に全面的に協力してもらいまっせー（なんでも聞いてな）

第43回総会の成功をお祈り申し上げます。

楽しい緑友 楽しい総会

徳島一代会 会長
乾 孝康



第42回全国印刷緑友会とくしま総会に、参加頂いた緑友のメンバー、また、所用で参加頂けなかった会員諸兄、本当にありがとうございます。無事に終わりました。皆様の暖かい友情に、徳島一代会会員一同、感謝感激しております。

色々無理難題をお願いしました、吉田実行委員長を始め、会員全員が現在、感動・感激・感謝の余韻に浸っています。

とくしま総会のコンセプトは、実行委員長の性格を尊重し、難しい事は除外して「楽しく 楽しく 楽しく」を考えていました。皆様をおもてなしする手段は、「阿波の素材を活かした料理」「眉山の美味しい水から生まれた酒」そして美人の誉れも高い「阿波女」の3点セットですが御楽しみ頂きましたか。

阿波踊の囃子言葉に、「踊る阿呆に見る阿呆、おなじ阿呆なら、踊らにヤソンソン。」と言うのが有ります。これは、参加するな

ら、積極的に参加しなければ、その良さが解らないと言っています。何事にもそうだと思います。徳島一代会は今、全員その良さをかみ締めています。総会という、貴重な経験の場を与えてくれた全国の緑友の仲間感謝しています。

悪い思い出は、遠慮無く徳島に残して行って、「素晴らしい、良い思い出と阿波踊」だけを持って帰って行ってください。至らぬ事も、多々合ったと思いますが、友情に免じて笑って許して下さい。

次回第43回総会は、札幌青年印刷人の会の皆様が主管されます。豪放磊落の中に、繊細な気配りを併せ持つ、伊藤文二さんが、きっと手ぐすねを引いて、皆さんのお出でを待っていると思います。

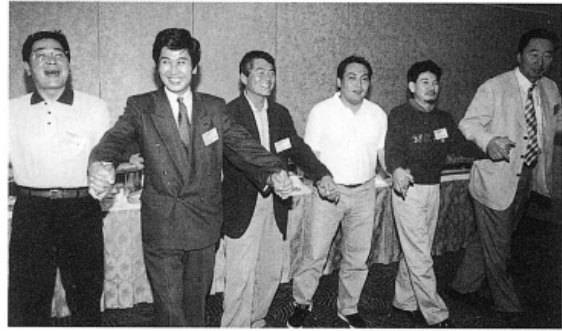
ぜひ、会員諸兄の今回以上のご参加をお願いし、また、総会のご成功を祈念して、御礼のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

第42回
全国印刷
緑友会

とくしま総会

フォトライブラリー





平成10年度（41期）決算報告

（平成10年度4月1日～平成11年3月31日）

収入の部

（単位：円）

科 目	本年度決算額	摘 要
前期繰越金	388,344	
会計収入 （未収入金）	4,334,400 117,000	$\left. \begin{array}{l} 41 \times 3,000 \times 12 = 1,476,000 \\ 1,191 \times 200 \times 12 = 2,858,400 \end{array} \right\} 4,334,400$
雑収入	50,000	（名古屋より）
受取利息	1,581	
名簿代収入	1,757,400	
合 計	6,648,725	

※未収入金 96,000

支出の部

（単位：円）

科 目	本年度決算額	本年度予算額	摘 要
總會補助金	400,000	400,000	（青森）
大会補助金	400,000	400,000	（鹿児島）
セミナー補助金	300,000	300,000	（名古屋）
セミナー記録費	0	300,000	
機関誌「緑友」	1,300,000	1,300,000	（山梨）
会議費	220,762	300,000	（岐阜、青森、名古屋）
会計事務費	100,000	100,000	
総務事務費	100,000	100,000	
書記事務費	100,000	100,000	
渉外事務費	100,000	100,000	
名簿事務費	100,000	100,000	
広報事務費	100,000	100,000	
会長・活動費	200,000	200,000	
印刷通信費	8,189	70,000	切手、振込料
40周年記念誌纂編費	0	200,000	
總會補助金	400,000	0	（徳島）
名簿制作費	1,662,449	0	
次期繰越金	1,157,325	779,944	
合 計	6,648,725	4,849,944	

名簿制作費内訳

（単位：円）

1,757,400の内

会員より入金分（予定）	1,757,400	立 替 金	1,662,449	
		名簿収入	94,951	入金②分 1,130,100（26件）
	1,757,400		1,757,400	入金①分 627,300（15件）
				合 計 1,757,400

平成10年度繰越金処理（案）

当期繰越金 1,157,325円

上記の金額を次のとおり処理する

緑友基金繰入 50,000円

次期繰越金 1,107,325円

緑友基金会計報告

（平成11年3月31日現在）（単位：円）

科 目	金 額	摘 要
定期預金	7,543,107	長崎銀、千歳銀行
受取利息	26,950	（平成11年5月31日 満期）
繰入金	50,000	
合 計	7,620,057	

監 査 報 告

上記各項の調査の結果その正確なることを認めます。

平成11年4月17日

会計監査 島 義 雄 ⑩
 会計幹事 伊 東 文 二 ⑩

平成11年度（42期）事業計画

イベント主管グループ長

第42回全国印刷緑友会とくしま総会	乾 孝 康 (徳島一二会)
第42回全国印刷緑友会広島大会	信 廣 晃 (広島青年印刷研究会)
第33回全国緑友会京都セミナー	滝 本 正 明 (京都青年印刷人月曜会)

事業計画

第42回全国印刷緑友会とくしま総会	主 管 徳島一二回	日 時 平成11年 5月29日(土)・30日(日)	場 所 徳島プリンスホテル
第42回全国印刷緑友会広島大会	主 管 広島青年印刷研究会	日 時 平成11年 8月21日(土)	場 所 広島プリンスホテル
第33回全国緑友会京都セミナー	主 管 京都青年印刷人月曜会	日 時 平成11年	場 所 未定
機関誌FRIENDS OF GREEN発行	100号：平成11年 6月発行 100号記念特集	101号：平成11年11月発行	102号：平成12年 3月発行

常任幹事会

第1回	平成11年 5月	徳島
第2回	平成11年 7月	茨城
第3回	平成11年10月	
第4回	平成12年 4月	

グループ長・常任幹事会議

第1回	平成11年 5月30日(日)	徳島プリンスホテル
第2回	平成11年 8月21日(土)	広島プリンスホテル
第3回	未定(京都セミナー時)	

その他目的達成時必要な事業

平成11年度（42期）予算

(平成11年度 4月1日～平成12年 3月31日)

収入の部

(単位：円)

科 目	金 額	摘 要
前 期 繰 越 金	1,107,325	
会 費 収 入	4,392,000	基本会費 (42団体×3,000円×12ヶ月=1,512,000円) 会員割り (1,200人× 200円×12ヶ月=2,880,000円)
過 年 度 会 費	96,000	
入 会 金	20,000	宮崎・千葉・大牟田 (3 団体×20,000円=60,000円)
雑 収 入	1,500	銀行利息等
合 計	5,616,825	

支出の部

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額	
機関誌「緑友」	1,500,000	100号、101号、102号	会 議 費 300,000	
会 計 事 務 費	100,000	総 務 事 務 費	100,000	
書 記 事 務 費	100,000	渉 外 事 務 費	100,000	
広 報 事 務 費	100,000	サ ー バ ー 管 理 費	300,000	
40周年記念誌纂編費	500,000	印 刷 通 信 費	70,000	
総 会 補 助 金	400,000	(札幌)	大 会 補 助 金	400,000
セ ミ ナ ー 補 助 費	300,000	(京都)	会 長 活 動 費	200,000
予 備 費	1,246,825		合 計	5,716,825

次期総会開催地 (案)

札幌 主管 札幌青年印刷人の会

平成11年度 全国印刷緑友会常任幹事会

日 時 1999.4.17.PM2:00

場 所 嬉野温泉 大正屋



1. 開会 (江馬氏)
2. 議長選出 (千代田印刷人新世会安藤氏)
3. 出席者の確認
4. 資料の確認
5. 議事録作成人指名 (木下氏)
6. 会長挨拶
7. 直前会長挨拶 (長尾氏)
8. 報告事項
9. 審議事項

(1) 徳島総会の件 (吉田氏)

主 催：全国印刷緑友会
 主 管：徳島一代会
 日 時：平成11年5月29日(土)・30日(日)
 会 場：徳島プリンスホテル徳島市万代町3-5-1
 TEL (088) 624-1120
 登録者：130名 117名+13名(徳島一代会)
 登録料：¥25,000 同伴者¥21,000(宿泊ツインベ
 ス懇親会・朝食)
 スローガン・タイムスケジュールについては前回通り
 エスカレーション5月30日(日)ゴルフ、サンピアゴ
 ルフクラブ、8組登録費¥20,000 10:30スタート
 観光(実費)徳島バス観光
 登録料については¥3,000安くしていただいた。総会開
 催予算等について、常任幹事会で異義なく可決、承認さ
 れた。

(2) 徳島総会提出議案の件

第1号議案～第6号議案まで報告・提案し承認をえ
 る。

・会則変更の件

第3章会員第9条、第5章役員第12条・第14条・第16
 条・第18条・第22条・第23条・第24条・第27条・第29
 条・第30条・第31条について会長より改訂の箇所の説明
 があった。

総会前までに改訂箇所の新旧の対比を作成し提案する
 ことを承認した。



・事前報告及び決算の件
 第2号議案 平成10年
 度(第41期)決算報告書、
 収入の部、支出の部につ
 いて別所の通り説明報告
 があった。(山口氏)

次年度役員の内

内定ということで紹介があった。

次年度事業計画及び予算案の件

常任幹事(総務)が決まり次第提案報告する(福田氏)
 (3) 名古屋セミナー事業及び決算承認の件

登録人数267名 別紙により事業・会計報告があった。
 常任幹事会で異義なく可決・承認された。

(4) 新人グループ承認の件

宮崎印刷はまゆう会・千葉県青年部が新しく加入の
 見込みとの会長より報告があった。加入について承認さ
 れた。

(5) 広島大会の件(福田氏)

日 時：1999年8月21日(土)

場 所：広島プリンスホテル

登録料：¥28,000 同伴者¥20,000 子供 無料(宿
 泊費実費)

タイムスケジュール

8月21日(土)

グループ長・常任幹事会12:00～3:00(弁当付)

式 典 3:30～4:00

講 演 4:00～5:30 講師 大林宣彦先生

写真撮影 5:30～6:00

懇親会 6:30～8:30

8月22日(日)ゴルフ等について説明があり可決・承
 認された。

10. 協議事項

(1) 緑友サーバーの件

ひき続き白井氏にお願い
 する。

(2) 40周年記念誌の件

進行状況について報告が
 あった。



11. その他

・福岡印刷若業会 平成11

年6月5日(土)第16回九

州・山口青年印刷人福岡大

会 アクロス福岡

・金沢青年印刷人クラブ

平成11年6月12日(土)30

周年記念大会 金沢ニューグランドホテル

・茨城印刷緑友会 平成11年7月10日(土)40周年記念

大会 大洗パークホテル

茨城40周年の時に第1回の常任幹事会を開催

・札幌青年印刷人の会 日時2000年5月27日(土)全国

緑友会総会、案内があった。



12. 審議事項の確認(木下氏)

13. 前回議事録の確認

第4回グループ長・常任幹事会名鉄グランドホテルで
 の議事録について了承された。(木下氏)

14. 講評(長尾氏)

15. 閉会 以上で議事を修了(17:30分に閉会した)

解散(拍手)

平成11年度 第1回 全国印刷緑友会グループ長・常任幹事合同会議

日 時 平成11年 5月30日 午後7時30分～9時30分

場 所 徳島で開催

1. 開会

2. 議長選出

3. 資料の確認

4. 議事録作成人名指名（名古屋而立会前崎氏）

5. 会長挨拶（福田氏）

会長より各グループ長会計名簿の調査報告をすみやかにお願いしたい。

6. 直前会長の挨拶（松浦氏）

7. 各常任幹事・各グループ長自己紹介

8. 報告事項（広報担当 依田氏）

「フレンズオブグリーン100号（記念号）」について

- 従来通りの形をベースに徳島総会をメインにしたもの、各グループ情報も記事にする。
- カラー印刷を予定。

9. 審議事項

（1）広島大会の件（実行委員長 信広氏）

- 夏休みでもあるので、家族同伴の変更あり。20,000円が18,000円に。
- 記念講演として『大林宣彦氏』を講師とすることを決定。

●日時・スケジュール等は別紙の案内通り。

《質疑》

●常任・グループ長が家族同伴時、式典までの時間の過ごし方について考えて欲しいとの要望あり。持ち帰り検討していただくことに。

●登録料について28,000円がもう少し安くないかとの要望あり、参加全員の自己紹介を兼ねて各グループ長より意見を求めた。広島青年印刷研究会さんが十二分に努力した結果の金額なので、異議なしで可決、承認された。

（2）京都セミナーの件

●日時 平成12年1月29日（土）に開催することで承認された。

●場所 立地その他条件を考慮した結果、京都ホテルを検討中。

●講演 『岩井よしてる氏』を検討中。

●登録人数 250名を予定。

●詳細内容については、次回までに検討していただくこととなる。

●総会、大会、セミナーの登録料（予算）に枠を設けるかどうかは次回からの検討事項とする。

（3-1）グループ長会議・常任幹事会の役割と運営方法の確認。

（3-2）グループ長会議の役割の確認。

- 緑友会に対してのそれぞれの熱い想いが語られた。
- いろんな議論の末、常任幹事会はグループ長により、全権委任されたとの認識が確認された。

（3-3）常任幹事会においてブロック担当が欠席した場合の代理について

- 次回、グループ長・常任幹事会までに案もしくは方法を検討してもらうことになる。

10. 協議事項

（10-1）札幌総会の件

- グループグループ長・常任幹事会は当日の12時30分から。
- 詳細は別紙参照

（10-2）40周年記念誌の件（記念誌担当 小倉氏）

現時点までの資料現行の収集状況の報告があった。

11. 講評

12. 閉会

平成11年度 第1回 常任幹事会

日 時 平成11年7月11日 午前8:30~10:00

場 所 大洗パークホテル

1. 開会

2. 議長選出 (秋田印刷緑友会・大門氏)

3. 資料確認

4. 議事録作成人名 (名古屋而立会・前崎)

5. 会長挨拶 (福田会長)

6. 直前会長挨拶 (松浦直前会長)

7. 報告事項

○「フレンズオブグリーン」について (広報担当常任幹事・依田氏)

100号の件について、以下の2案あるがどちらにするかとの問掛けあり。

A 今までのスタイルならば、広島大会までに発行可能。

B 発行時期をずらしてもよければ、下記企画を盛り込みたい。

1 年表形式 (1号から99号までの内容抜粋)

2 緑友の広報を担当された方々のコメントの掲載

→意見を求めた結果 B案に決定した。

○緑友サーバーの件 (情報ネット担当 常任幹事・白井氏)

オンラインサインアップを自由にできる様にしてあるので広く利用をお願いしたとの報告あり。

○第34回トップ印刷人セミナーの件

大阪青年印刷クラブさんよりPRあり。

8. 審議事項

(1) 徳島総会決算報告の件 (徳島一代会・吉田氏)

別紙の通り、収入・支出の報告があり承認された。

(2) 広島大会の内容確認の件

以下の報告あり。

・登録状況の報告

・前回の幹事会で質問のあったグループ長・常任幹事会との間の同伴家族の過ごし方について、タクシー等での観光を検討しているとのこと。

・素人芸も用意し、楽しめる大会を考えているとのこと。

(3) 京都セミナーの件 (京都青年印刷人月曜会の方欠席の為総務担当常任・安藤氏)

・登録料 18,000円の件

登録方法についてセミナーと懇親会の2つに分けてはとの意見あり。

・登録人数の設定について

緑友メンバー210名となっているが120名位で設定し直せないかとの意見あり。

主幹グループの方が欠席の為後日確認の上広島大会の前までに常任幹事の方々へ報告することとなる。

(4) 札幌総会の件 (札幌青年印刷人の会・藤田氏)

・登録人数 120名を予定

・グループ長・常任幹事会を、当日昼食を取りながら行う予定。

質疑 当日の昼では半数の人が前泊になってしまう。何とかならないか?

→アクセス (宿泊) を含めて広島大会までに資料の準備をしていただくこととなる。

(5) 総会・大会・セミナーの金額の目安の件

各ブロック担当の常任幹事より各グループの意見報告が行われ下記の通りに確認された。

・全員の共通認識として受け止めることとする。

・登録人数については総会120~130名で23,000円から25,000円 (宿泊込み)

大会200名で25,000円から30,000円 (宿泊込み)

セミナー120~130名で12,000円から15,000円を目安とする。

・総会は宿泊込、セミナーは宿泊なしと認識する。

(6) 会則変更の件

徳島総会の席上で手続きの取り方等に異議を唱えられたグループの方に、どの様に各グループへの手続きを取られるのか、その方法案を出していただきたいとの意見あり。

(7) ブロック担当欠席の場合の代理の件

→欠席の場合は必ず代理を出すこととし、その方法は各ブロックに一任することとする、との確認がされた。

(8) 次期会長選出の件

各グループの意見も多々出たが今後の継続検討事項とすることが確認された。

9. 協議事項

(1) 長崎大会の件

8月の広島大会でのグループ長・常任幹事会に報告してもらおう事となる。

(2) 次回以降の常任幹事会の日時・場所の件

10/23 (土) 京都にて

(3月に沖縄を予定)

(3) 40周年記念誌の件 (記念誌担当常任幹事・小倉氏)

歴代会長の資料もかなり集まったとのこと。それをまとめる作業を佐賀県印刷人若楠さんをお願いすることとなったとの報告あり。

(4) 2001年セミナー以降の立候補の件

2000年度セミナー立候補受付を本日より開始。広島大会時の常任幹事会の時に締切となる。

10. その他

11. 前回議事録の承認

12. 講評

13. 閉会

各地事業報告

金沢青年印刷人クラブ創立30周年 記念大会 御礼とご報告



大会実行委員長
岩上 伸人
本年度私達金沢青年印刷人クラブは、創立30周年を迎えることとなりました。

それを記念して、去る6月12日、13日に創立30周年記念大会を開催致しました。3年前に当時の会長より、30周年を記念して何か事業をやりたい。については実行委員長をやって欲しい旨のお話があり、僭越ながらお引き受け致しました。

そして約2年間の試行錯誤の中、ようやく骨子が固まり出したのが昨年末あたりからだったように記憶しております。

今年に入ってから各担当委員会もより活発に活動し、メンバー丸となり当日を迎えることができました。そしてその事業内容は下記のとおりです。

1 & 2 記念式典&同懇親会

日時 6月12日(土)

式典/18:00~18:50

懇親会/19:00~20:30

場所 金沢ニューグランドホテル

参加人員 約120名

3 記念事業

日時 6月12日(土)・13日(日)

9:30~17:00

場所 石川県産業展示館2号館

参加者 一般来場者

○インターネットホームページによるメンバー企業紹介並びに30周年関連事業等の紹介・案内

○「印刷の流れ」パネル制作と展示

○ミニ絵本「ケナフの森」制作および製本実演と配布

○ケナフの種配布

4 記念講演

日時 6月12日(土) 13:30~15:00

場所 石川県産業展示館2号館2階

講師 山田元一氏(金沢倶楽部代表取締役)

「出版業界からみた印刷」

参加者 シニア・メンバー及びメンバー企業の社員、一般来場者等約100名

まず式典・懇親会においては、吉田石川県印刷工業組合理事長、能登先輩をはじめとするシニアクラブの方々、全国印刷緑友会メンバー等々を含めて約120名のご出席を頂きました。席上、来賓の山出金沢市長より、我々への激励や印刷及び印刷文化発展のお話から伝統工芸、果ては金沢の特産物・お土産品の解説に至るまでの楽しいご挨拶を頂き、私達はもとより緑友メンバーにも大きなインパクトを与えました。

そしてその後のアトラクションの数々と共に、楽しい、意義深い一時を過ごす事が出来ました。またメンバー一同今後一層の団結と友情を意識し、誓い合うことが出来ました。

また産業展示会でのイベントの数々は、ペーパーショーや古紙リサイクルフェア、機材展との同時開催ということで、大いに盛り上がりました。会場では「ケナフの森」と題したミニ絵本を作る課程(工程)を通してデザイン~印刷・製本までの各工程をわかりやすく大パネル&写真で表現しそれを見れば印刷の工程がすべて分かるよう工夫をしました。



また同じキャラクターを使ってテレホンカード、シール、グラビア印刷等々を準備し、それら製品や途中の（中間）製品等も展示することにより、展示物に一貫性を持たせ、より深くご来場の方々に理解して頂くよう配慮しました。またシニア及びメンバー企業紹介をインターネットホームページで作成・展示し、就職を控えた学生や一般来場者よりの希望があれば、即その場でプリントアウトし、持ち帰ることが出来るようにしました。

以上2日間の短い間ではありましたが、我々メンバー54名、一生懸命にやった成果はあったと確信しております。

ご参加頂きました緑友関係者46名におかれましては、遠方より我々のために駆け付けて頂きまし

た。当日いたらぬ点も多々あったかと思いますが、紙面をお借りして御礼申し上げまして御礼とご報告にかえさせていただきます、本当にありがとうございました。



茨城印刷緑友会 創立40周年記念式典開催

去る、7月10日（土）、茨城印刷緑友会の創立40周年記念式典を茨城の地「大洗」で「わっはっはっは と40歳。さわいではしゃいで大洗^{おびわらい}」をテーマに挙行いたしましたところ、来賓に第14代全国印刷緑友会会長中村守利様（全印工連会長）はじめ、全国印刷緑友会会長福田信彦様、並びに全国より24グループの緑友のご出席を賜り、茨城から茨印工組、同水戸支部、そして茨印紫友会（OB会）の諸先輩方、併せて110名のご臨席を賜り盛会裡似終了できましたことを心より感謝申し上げます。

また、ゴルフコンペにお付き合い頂いた緑友諸氏には、突然の風雨にみまわれ、あいにくのプレーとなりましたが、山形印刷研修会今野敏一君のベストグロス・優勝をはじめとして、仙台刷親会江馬安雄君の準優勝、3位に秋田印刷緑友会五島建二君、そしてご夫婦で参加の文京緑友会白井慶吾、令夫人智子様レディース賞等々大いに活躍されました。

記念ゴルフ、式典と続いた後は、勇壮な「荒磯太鼓」に始まった懇親パーティーでは、緑友の友情の輪を広げ合い、全国の仲間と来たる21世紀に向かって、ともに伸びゆくことを誓い合いながら幕を閉じました。



マネージメントゲーム体験談

Friends of Green 寄稿文

実は私のようなものがMGに関して文章を書くなどということはおこがましい限りなのです。まだ一度しかMGに参加したことがないので。しかし、その一度というのが先日、名古屋而立会が開催されたMG例会に出席させていただきましたので、広報委員長（うちの会の依田さん）が「会と会との交流も重要だ」という高尚な気持ちから原稿依頼がきたのかなと思っています。でも。もしかしたら。頼みやすいやつとにかく頼んじまえていうくらいかも…まっ、とにかくがんばって書いてみます。少しの間お付き合いのほどよろしく願いいたします。

経営者の仕事って何だろう？

平日にゴルフをするのが社長の仕事なんだろう？いろいろな会に所属にて勉強かいという名の飲み会に参加することが社長の仕事なんだろう？人事をするのが社長の仕事なんだろう？給料を払うのが社長の仕事なんだろう？

東京の印刷会社でサリーマンを6年間やり、山梨に帰ったばかりのころよく考えました。しかし、私のような出来の悪い頭では悩みは益すばかり。一倉定先生のセミナーに一年間通いました。経営協会の本も読んでみました。会計事務所の先生に経営計画の立て方、財務資料の読み方を教わったりもしました。しかし、悩みは解決されず、かえって混沌としていきました。

戦略会計との出会い

そんな時、緑友会で出会った名古屋而立会の岡田さんが、山梨に講師としていらっしゃる機会がありました。題材はデジタルがらみでしたが、話の折々に出てくる経営者として社員に対する接し方、分社化などの話に非常に興味をおぼえ、岡崎市のプラザー印刷さんを見学させていただくことになりました。

そこで、西順一郎さん著作「人事屋のための経理の本」を紹介していただきました。

会社の内容を要素法（PVQFG）でわかりやすく解説し、また、一般的に拒否反応を感じる全部原価を使ったP/LやB/Sではなく、直接原価を使ったSTRAC表で評価していく。

また、プラザー印刷さんでは、実際にそれを社内に採り入れ、分社化し、毎月の決算を行う。そんな取組みに非常に感銘を受けたことを今でも鮮明に覚えています。

その後、DTP、インターネットなどのデジタル系の勉強や、アップル・アドビなどでの講師活動。また、今年（1999年）の2月までは東京の印刷会社コンサルティングのため籍籍し、1年半ほど甲府を離れてしまったこともあって、戦略会計・MGに本格的に取組むことは出来ませんでした。

本を読んだこと

私事ですが、今年（1999年）の4月に社長就任いたしました。東京でのコンサルティングも一段落し、いよいよ経営者として良い会社作りに努力していこうと思い、岡田さんに紹介していただいていた戦略会計の勉強をしてみようと思いました。西順一郎氏の本を5～6冊程度読んでみていよいよこれはぜひ会社に採り入れたいと思うようになりました。



MGに参加してみた

そこで、まずはMGに一度出てみようと思い、いろいろと探したところ、名古屋而立会の6月例会がMG例会だと教えられ、田中会長のご好意で参加させていただくことになりました。

1テーブル5～6人でMGゲーム盤を囲み、それが4卓、20人程の参加者ではじめられました。

まずはルール説明が入念にあり（初心者が多かったので特にだったのかな）、第1期は全員が同じように購入製造販売を行います。そして、マトリックス会計表（決算書）の作成、この段階ですでに頭は加熱気味。

第2期は、戸惑いながらも実際に取引を行います。商品販売時にはプライスカードを握って、声を出しての入札。「お前もぐり過ぎだよ」「談合しようか」などと無駄口を聞きながら第2期終了。また、マトリックス会計表の作成で頭はいよいよショート気味。ここで、MGベテランの方は黒字決算、私のような初心者は大赤字。

第3期は、成績順にABCDとそれぞれの卓に席替えしてからスタートです。そろそろコツを掴んできた人もいて、研究開発型で、販売価格で勝負しよう。安くてもいいからとにかくたくさん売ろう。いろいろと考えて望んだ第3期でしたが、結果は散々。いよいよ倒産の危機、中には決算で給料が払えずにヤーさんから借金をする人も出てくる始末。そこで、今度は第4期に向けた経営計画の立て方を教えていただいて、一気に挽回を狙う積極派、徐々に行こうという慎重派、それぞれに予定を立てて一日目は、そこまで。

懇親会のビールで少しずつ頭を冷やしながらも、会話はMGで盛り上がり過ぎて飛び込み参加の小生もいろいろな方と共通の話題があるので非常に盛り上がりさせていただきました。二次会も「くりっ」と盛り上がりまして…（内輪過ぎかな）

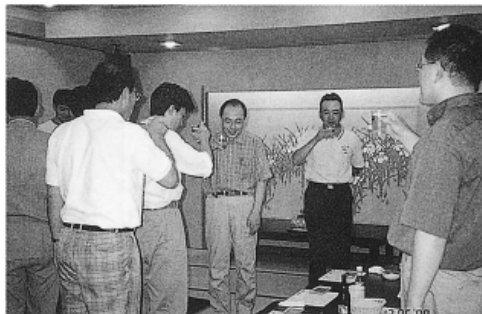
第4期。「さて行くぞ」と気合を入れて臨んだとたん「取引先倒産で特損を計上」（ゲームなんですけど結構リアルなんです）。後はずるずると泥沼にはまり。決算が終わると何と自己資本がマイナス。

そして最終第5期。ゲームとしては、倒産ということで公的資金を借りてのスタート。「とにかく買って売ってをたくさんやろう。」という思いで臨みました。ラッキーカードの助けも借りて第5期にして始めて黒字の決算をして終わりました。

而立会のパワーとやまなしとの交流

とにかく2日間、目一杯時間を使ってのMGは楽しくもあり、苦しくもありとても貴重な時間を過ごせました。

また、このような例会を会として開いていける名古屋而立会のパワーを改めて感じる事が出来ましたし、何よりも飛び入り参加のやまなしの「くりっ」を暖かく迎え入れていただいたことに感謝いたします。



MG 1日目が終わった懇親会でも言ったことなのですが、MGは一緒に卓になった人が全員黒字になることもあるし、全員赤字になることもある。どちらかが勝ってどちらかが負けるスポーツのような世界ではありません。実際の会社経営もそうですし、緑友会での仲間との交流もそうだと思います。総会も幹事会もグループ長会議も大会もセミナーももっと実りの多いものに出来るのではないのでしょうか。

今回はMG例会に参加させていただいて普通のセミナーや講演会で出来る交流の、何倍も密度の濃い交流が出来ました。

現在やまなしは、会員数が26名ほど。単独では出来ないこともいくつかの会が合同で交流を進めていけば、もっと幅の広い活動が可能になると実感しました。今後も緑友会が楽しい、すばらしい会であり続けることを願って。

追記 最終校正をしている今、1999年末。社員全員参加のMGを7月から、月一ペースで6回終了。11月からは分社もスタート。社員の中には気づき始めた人もちらほら。今後が楽しみです。

やまなし印刷若人会（Ying）
株式会社アド井上 代表取締役社長 井上 雅博
masahiro@mdf.co.jp



A Relay essay

徳島一代会 小浜 信夫

こんにちは はじめまして 徳島一代会の小浜信夫です。

先日の総会では、いろいろとありがとうございました。このイベントでやっと皆さんの仲間入りができたのではないかと思います。13人のメンバーで「大丈夫だろうか」と不安でいっぱいでしたが、まわりの皆さんに支えられ、緑友の輪のすごさを改めて実感しました。また、一代会の中でメンバーの意外な力を発見できたのは、収穫でした。特に、白熱した議論の時に、冷静なYさんの意見は、なんと貴重なものでした。このように役割分担が、確立してきました。

私の役割分担としては、懇親会の司会でしたが、根っからの上がり性(?)なので、とても不安でしたが、なんとかこなすことができ、ほっとしております。またこの総会は、別の意味で記念に残るものとなりました。総会の3週間前に結婚式を挙げ、新婚気分を当日を迎えました。結婚式=徳島総会の図式は、永遠(?)に忘れる事のできないものとなりました。おかげで、真面目で清く正しい(?)生活を送っています。

しかし、最近では、お盆に向けて阿波踊りの練習に励んでいます。「総会の準備が終わったら、次は阿波踊り」といわれながら出ていく自分に「意思の強い男だ」と自我自賛(?)しながら、大きなプレッシャーを感じています。自分のやりたいことに理解を示してくれる妻に感謝、感謝。

徳島市内では、お盆の間(8月12日から15日まで)車を通行止めにして、栈敷が設けられます。その中を踊っていく“快感”といえは何物にも代えることの出来ないものです。やはり阿波踊りは、「踊る阿呆に、見る阿呆。同じ阿呆なら踊らにゃ、そん、そん」というだけあって踊らなければ良さが分らないものです。是非機会があれば、一緒になって踊ってみてください。癖になっても責任はとりませんが。

5月に山梨のIくんからこのリレーエッセイの依頼を受けていたのですが、締切日から1ヶ月も遅れてしまいご迷惑をおかけしました。次のリレーメッセイでは、このようなことが無いようによろしくお願いします。(終わってホッ…)

自己紹介

全国印刷緑友会 次期(平成13年度)会長
大阪青年印刷クラブ 矢谷 猛



次期会長の抱負ということで原稿依頼を受けましたが、来年の5月までは平の会員ですし、否定の可能性もありますし、それと私が常任幹事を井下氏に変わってもらってから4年以上立ちますので自己紹介をしようと思います。私が大阪青年印刷人クラブに入会したのは、今の奥さん(前はいません)と結婚した年ですから18年前になります。身元引き受け人は山口 博司氏です。

早くから幹事をやっていましたが確か神戸の大会(?)の夜 先輩の坂田悦造さんと同室で、夜中の3時くらいまで「緑友会はええもんや、行かなあかんねん」(古い話で覚えてませんが)緑友会の良さというものを諄々と説かれました。この時の縁か数年後「もうワシら年寄りの出る幕やない、ヤンボー(入会して初めての会で自己紹介したときに綾田先輩に名づけられました)お前が常任になれ」とバトンを渡されました。

大阪の会長は2期4年やりました。2期目は誰も受け手がいませんでしたので仕方なく・・・大阪の会長時の思い出はなんと言っても大阪大会と大阪の30周年記念をやったことです。

イベントを受けるのは大変ですが、やはり達成感や自分達の研鑽の為ではと、今でも思います。

私の人となりですが、今回の緑友会長の件も「なんで受けたん」と友人に言われた時、「僕のいいところは底抜けに人の良いところと、決めるとすぐ返事してしまうところや」とこの緑友会の会長を受けるという暴挙にも理由を付けて納得しようとしています。そんなこんなで理解してください。(でけへんか)

会長としての豊富を書けとのことですが、ちょっと困ってしまいました。実はしょうもないことしか浮かばないからです。

例えば僕は話しべたですので挨拶は短くしますよとか・・・常任幹事会は今年に3度開いていますが、常任幹事会はメール会議で十分だから集まって飲み会だけにしたらとか・・・ただ中村全印工連理事長の言われている2005計画には興味というか関心が有りますので、関わられたならと思います。

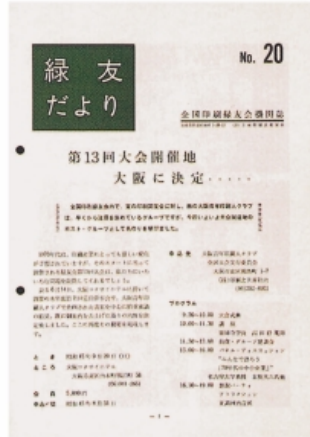
2001年5月緑友総会でなったら私なりにがんばってやります。宜しくお願いします。

全国印刷緑友会広報誌の移り変わり

(広報誌の変化を中心に記事にした為、歴代会長名、編集者名が全て紹介できないことをお許し下さい。)



第10号 昭和43年1月発行
(幹事長 白石豊、発行 全国印刷緑友会事務局)
上質紙に活版印刷によるスミ1色刷



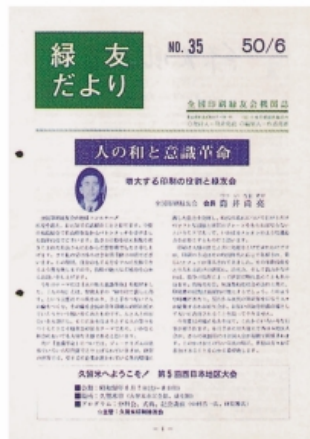
第20号 昭和45年7月発行
(幹事長 大川英郎、発行 全国印刷緑友会事務局)
コート紙となりオフセット印刷



第27号 昭和48年2月発行
(幹事長 丸谷慶二郎、編集 名古屋而立会)
コート紙 グリーン+スミの2色刷



第32号 昭和49年7月発行
(幹事長 若山晃一、編集 千代田印刷人新世会)
コート紙 グリーン+スミの2色刷
はじめて広報誌に緑友会のマークが入る



第35号 昭和50年7月発行
(会長 筒井尚亮、編集 日本印刷技術協会)
この年より幹事長から会長と名称変更



第45号 昭和55年5月発行
(会長 飯田範夫、編集 日本印刷技術協会)
45号から72号まで広報誌タイトルが「緑友」となる。コート紙46号より2色刷



第73号 平成2年8月発行 (会長 城戸憲次、編集 千代田印刷人新世会) 73号よりタイトルがフレンズオブグリーンとなり、デザインも一新



第82号 平成5年7月発行 (会長 利根川政明、編集 ぎふ印刷翠閣クラブ) 82号から新デザインに変更



第88号 平成7年9月発行 (会長 長尾良宣、編集 茨城印刷緑友会) 88号より現行デザインとなり、会員持ち回りのリレーエッセイもこの時スタート

歴代常任広報担当幹事・編集者コメント

「フレンズ オブ グリーン100号に寄せて」

茨城印刷緑友会 小倉 克夫 (FG88~93号担当常任)

フレンズ オブ
グリーン (以下F
ofG) 100号おめで
とうございます。

我々印刷緑友会
もFofGの編集を
88号から93号ま
で担当させて頂き
ました。その間の
思い出を少し…。
まず88号、第37
回長崎総会紹介号
です。広報担当初



取材。取材のことだけ考えて行ったらいきなりの
綱領唱和担当。心理的余裕の無い綱領唱和でした。
でも無事に長尾会長が誕生し、同時に情報ネット
ワーク推進委員が誕生しました。私もこの委員た
ちとの連絡係を兼任と言う事で、宣伝も兼ねてこ
の号に白井慶吾さんと佐藤達也さんに寄稿を頂き、
89号で岡田吉生さん、逸見節夫さん、米倉信
三さんの講演模様、91号でこの5人に間直樹さん、
井上正弘さんを加えた委員全員のパネルディスカ
ッションを掲載させて頂きました。委員の皆様、
お世話になり本当にありがとうございました。

もう一つ、88号からリレーエッセイネットワー
クFofGが始まり、現在も続いている様ですが、
事の起こりは次の様な話です。某業界誌のリレー
エッセイの当時常任幹事をしていた札幌の伊藤文
二さんと私が前後して執筆、あれをFofGでやろ
うよという事になり、内容をよく知っている伊藤
さんに第1回を書いて頂きました。この二つ、情
報ネットワーク推進委員活動報告とリレーエッセ
イが茨城の代の目玉だったと思います。

その他では89号の表紙。熊本大会の参加者が多
すぎて記念写真が4枚になりいつもと違うレイア
ウトになりました。90号の金沢セミナー、クイ
ズ!! 緑友ゼミナール、そして92号山梨大会「マル
チな午後」、この二つが記事として伝える難し
さを実感させられた事でした。写真と参加者のコ
メントに助けて頂きました。93号阪神復興支援セ
ミナー、熱く暖かい会ですよね、緑友は。そんな
緑友をFofGが伝え続けて下さい。

やまなし印刷若人会 北條 正

それは、わが「やまなし印刷若人会」に所属す
る依田訓彦緑友広報担当常任幹事の無謀なくわだ
てから始まりました。その前の年まで「リョクユ
ウ」という言葉が会話にでてきても理解できな
かった人間に、全国印刷緑友会の機関誌「フレン
ズオブグリーン」の編集委員長をフッタのです。

そのかわいそうなりョクユウオンチは、あわて
て過去のナンバーを読み返し手探りで始めたので
す。しかし、経験を積んでいくうちに少しずつ要
領はわかってきてもやはり最後まで苦勞するのは
原稿集めです。これは、歴代編集委員長の方々も
身にしみて実感されたことでしょう。

各総会・大会・セミナーを担当された実行委員
長さんへお願いする内容が質・量ともにメインと
なってくるわけですが、こちらなりに依頼のタイ
ミングなどいろいろ工夫してみました。

そして、イベント直後の興奮冷めやらぬころ、
何週間か過ぎてあと処理も終わったと思われるこ
ろ、1~2カ月ほどたって冷静に振り返れるので
はないかと思われるころ、など様々な依頼時期を
試したり、忙しい年度替えや年末をさけるように
配慮した結果、見事に原稿収集の効率と相関性が
アリマセンデシタ!。これはもうこちらの都合で
進ませてもらうしかないと開き直りました。みな
さん本業を抱えての執筆は、たいへんであること
は重々承知の上で、心を鬼にしてナクナク原稿の
催促をしてきました。(そこで、ホントカ〜、という
顔をしたアナタ、編集委員長もつらいんですよ)

しかし、責任感を失わぬ実行委員長さんたちや、
指名され我が身の不幸を嘆きながらも記事を絞り
出してくれた方々のおかげでこれまでなんとか大
きなトラブルもなく(不幸にもこの第100号を除
き)責務を遂行することができました。これまで
お世話になったみなさん、あらためてお礼を申し
上げます。

また、自ら手がけた刊行物を世の中に送り出す
という喜びも、ちょっぴり味わうことができたこ
とに感謝したいと思います。

この感謝の気持ちを持ち続けながら、あとわず
かになった任期を全うするつもりです。もう緑友
広報担当常任幹事再任はありませんよね?

依田常任!

やまなし印刷若人会 依田 訓彦 (FG94号~担当常任)

まずもって、全国のみなさまの広報誌「フレンズ オブ グリーン」発行を仰せつかっているなかで、100号の発行が1年数ヶ月遅れたことを改めてお詫び申し上げます。

私が広報常任幹事を仰せつかったのは、松浦会長の任期からですので1997年スタートになります。直前の長尾会長時代を入れますと、常任幹事も6年目になってしまいました。

FG発行は、前任者茨城印刷緑友会の小倉先輩よりバトンを受け取り、94号からスタートしました。常任幹事として広報を承ったのは私ですが、これはイコールやまなし印刷若人会で引き受けたことと理解しております。

そこで、現在のFGが、どのように制作されているかをご紹介します。

FGは、当会の中に、FG編集委員会がありましてそこが、企画、編集、制作、発送を行っています。編集委員長は、北條 正会員。(彼、無くして、FGは存在しませんでした)他、私を含めて3名(稲葉、吉岡)のスタッフで行っております。

制作の流れは、企画が決定しだい原稿依頼、入稿順に組み版へ入って行きますが・・・この辺の実体は、北條FG編集長の記事をお読み下さい。

私は、次期広報担当の方に少しでもヒントになればと、過去4年を振り返ってFG発行の傾向と対策を書いてみたいと思います。FGの発行は、年間3回その内訳は総会終了後大会前までの1号、大会終了後年内までに1号、そして、セミナー終了後年度切り替え3月までというスケジュールが基本です。制作段取りとしては、各イベントの当日に当然撮影スタッフ、取材スタッフ、それから主幹グループへの写真依頼と、実行委員長他原稿依頼を行います。終了後、数週間後編集委員会で企画した予定に従ってあらためて書面をもって原稿依頼、写真原稿依頼に移り、後はひたすら待ちます。当然催促のタイミング等も考えなが

ら記事を集め、後は我々の得意とする分野ですので説明は省きます。製本が上がってからのもう一仕事は発送です。現在は安藤総務のもと、全国のグループ長の住所等が常にクリーニングされており、宛先は問題有りませんがそのグループに属するメンバーの人数が基本的に不確定です。それはFGの発行数量にも影響しますのでここが唯一ネックですかね。発送まで済ませると、編集委員会で今回の号の反省と次号へのPDCA(プラン・ドゥ・チェック・アクション)です。また、原稿依頼時に、全国のメンバーと精通している人がいますと、話が大変早いのは事実です。

FGの4年間を振り返って、やはりここで、一度原点を見直すことも大切かなとも思います。FGの存在意義です。現在は、インターネット緑友サーバーが立ち上がり、必要な情報は常時掲載されて来つつあります。例えば、会員名簿、常任幹事会・グループ長会議の議事録、各地域でのイベント情報、総会、大会、セミナー内容の広報、報告等。通信上では、情報が欲しいと意識ある人が、ネットワークを通じてダウンロードしています。まさしく我々印刷産業が直面している事象とそっくりでFGの紙媒体としての発信は必要なのか・・・わたしはFGの紙媒体の存続は大変重要だと確信しております。理由は、やはり、紙媒体の手軽さ、気楽に何処でも気分次第で読める。ではないでしょうか。

将来、携帯端末の進歩により、紙媒体に肩を並べるほどの、使う年齢層に関係ないインターフェースを持ったハードと、通信インフラ、使用料金が整備されるまでは・・・。(マイクロソフト社のディック・プラス副社長の予言「紙の本は消える」は一読の価値あり)

最後に、FGの発行、また100号発行時のご助言を何度も頂きご心配を頂いた、茨城印刷緑友会小倉先輩に改めて厚く御礼申し上げます。



右から
北條 正 (編集委員長)
依田訓彦
稲葉政太
吉岡秀樹

